

## 「高齢者の人権」

今週は、高齢者の人権について考えてみましょう。

内閣府が公表している「高齢者白書」によると高齢者とは65歳以上を目安としています。日本では平均寿命の伸びや少子化により、人口のほぼ4人に1人が65歳以上で、世界で最も高い高齢化率となっています。

65歳以上の方も趣味や地域などで活躍されている方が多くおられる中、雇用についての課題があります。現役で働きたい高齢者が、これまでの経験を生かして活躍し続けることが重要となっていますが、再就職については、いまだ十分な環境ではない状況です。今や人生100年時代といわれるようになり、年齢に関係なく、誰もがいきいきと働ける環境をつくる必要があります。

最近では、認知症などの症状にある人の増加や、虐待、悪徳商法・詐欺によって財産をだまし取るなどの事件などが、社会問題として報道で度々取り上げられています。

特に、高齢者への虐待については、介護をする家族が加害者となるケースが多くあり、深刻な問題です。もともと良い関係であっても、介護者が疲れて追いつめられた結果、虐待に発展してしまうことが多くあります。一人で抱え込まないように複数人での介護や、介護サービス・制度を利用することも大切です。地域の人は、介護をする側、される側両方とも孤立しないように、それぞれの様子を気にかけてあげてください。

また、高齢者に関して「どのような人権問題が起きているか」という調査が各地で行われていますが、「悪徳商法や詐欺の被害に受けやすいこと」がいずれの調査でも半数を占めています。制度がどんどん変わったり、デジタル化が進み、よく分からないから相手の言いなりになってしまい、被害に遭うことも増えています。

いずれの問題も家族だけでなく地域コミュニティが高齢者を見守り、高齢者自身も地域の一員として人とのつながりを大切にしていけることが必要です。

私たちは、幸せに歳を重ねたいと願っています。「長生きしてよかった」と思える社会にするにはどうしたらいいのでしょうか。生きがいを持って、健康で長生きする高齢者がどんどん社会に参画して、地域を支える力になることが大切です。そして、若い世代は、高齢者に支えられていることを忘れてはいけません。経験豊富な高齢者の力や知恵を借りることも大切です。

誰でも年を重ねれば、身体面や精神面で衰えが出てくるものです。そのうえで、すべての人が年齢に関係なく、生きがいを持って働き、スポーツや趣味に挑戦し、それぞれの個性が尊重される社会にしていきましょう。

